

2014年度活動報告 標準化WG

2015年7月

標準化WGリーダー 林 正明

【標準化WG】

■ 計画

- ① 準天頂衛星に対応した端末および位置データの標準化
- ② 国際標準化に関する提言

■ 活動状況

- ① 準天頂衛星に対応した端末および位置データの標準化
 - 準天頂衛星標準端末の分類コード案を策定
 - 標準端末の分類コードの発表に向けた準備(学会・論文等)
 - QBIC提言(その2)への反映
 - 位置データの標準化に関する検討
- ② 国際標準化に関する提言
 - WGメンバーのアンケート(昨年度)に基づく体系的な提言作り
 - QSS社との打合せによる調整
 - QBIC提言(その2)への反映

2014年度活動報告

【標準化WG】 端末の利用拡大のための分類コードの提案

準天頂衛星に対応した端末の種類 (QZSSサービスへの対応)		用途 または関連機器(例)	精度	
M:メッセージ	M1:L1Sメッセージに対応	災危通報		
	M2:S帯メッセージに対応:	衛星安否確認		
T:時刻:	T1:一周波の補完信号に対応	GPS時計、通信網同期、電子決済、タイムサーバ、周波数管理		
C:コード測位	C1:一周波の補完信号に対応	C10:QZSS補強対応なし	スマートフォン、タブレット、 携帯機器、自動車、鉄道、船舶、 航空、無人機	m sm
		C11:L1S補強信号に対応		
	C2:二周波以上の補完信号に対応	C20:QZSS補強対応なし	航空、自動車(実験)、離着陸操船、 海洋石油プラットフォーム	m dm
P:搬送波測位 (P:Phase)	P1:一周波の補完信号に対応	P10:QZSS補強対応なし	測量(2級)、施設維持管理	dm cm
		P16:L6補強信号に対応		
	P2:二周波以上の補完信号に対応	P20:QZSS補強対応なし	農業機器、建設機械、測量(1級)、 航空測量、移動計測車両、 電子基準点	dm cm
		P26:L6補強信号に対応		

(注) 精度 m : meter, sm : sub-meter, dm : decimeter, cm : centimeter

※将来の拡張にも対応

2015年度活動計画 標準化WG

2015年7月

標準化WGリーダー 林 正明

1. 活動方針

準天頂衛星システムの構築が進む中、未だ利用できる端末は少なく、アプリケーションが十分に育っているとは言えない。アプリケーション自体には様々な可能性があり、これを活かすために標準化を推進する。更に国内に留まらず World Wide の取り組みを目指す。

2. 活動計画

(1) 標準規格の作成

昨年度までの成果に基づき、端末を普及するための標準規格を作成し、更なる標準化を検討して、規格書を公開し普及を進める。

(2) 提言のフォローアップ

QBIC 提言(その2)は第二項目に標準化を取り上げた。7機体制も考慮し、標準化推進について現状と課題を正確に説明する報告書をまとめ、関係機関と具体策の調整を進める。

(3) アプリケーション、Platform の標準化

QZSSを利用したアプリケーションをより作成しやすい環境を整備するための Platform の標準化の検討、DCサービス 及びQ-Anpi など災害救助のための標準化の検討を進める。

2015年度スケジュール表

	2015年度											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
全体	活動計画			▲総会								
1. 標準規格の作成 ・端末標準化 ・その他			規格制定方法の検討			標準規格書案の作成				標準規格書の完成・発行		
2. 提言のフォローアップ ・衛星測位技術標準化 報告書の作成			初版の作成		提言のフォローアップ / 関係機関との調整						更新・改訂	
3. アプリケーション、 Platformの標準化 ・Platform標準化 ・災害救助標準化			アプリケーション / Platformの標準化検討								検討内容のまとめ	